

特集

鼓童文化財団研修所二〇〇九

胸に秘めた熱き想いを太鼓の響きに乗せて、夢に向かってひたむきに走り続ける若者達をご紹介します。
今年、は研修所二年生による企画ページに加え、研修所OBの皆さん達からメッセージを寄せていただきました。



研修生編集
僕らが見た鼓童塾

非日常へ よらこそっ!!



研修所を舞台に、毎年秋に四泊五日で開催する『鼓童塾』。齊藤栄一塾長のもと、研修生と同じ生活を体験していただきながら、佐渡の豊かな自然の中、そこに集った二〇名の皆さんで、太鼓を叩くことの気持ち良さや、喜びを共有しようという体験塾です。

塾生さんをお迎えするのは二年生で、彼らに課された大命題は食事作りと、それを含め、日頃の茶道のお稽古で培われているはずの「おもてなしの心」の実践です。さて、その実態やいかに…。五日間、おもてなしに徹した研修生が、その振り返りを行っている場面を紹介させていただきます。

構成…藤本暢之 題字…上田恵里花

座談会参加者

真…川村真悟、純…池田純、亮…高橋亮、

久…久保田潤、仁…木下仁資、藤…藤本暢之

【塾生さんが来ると思うと】

藤 では、さつそく鼓童塾の振り返りを。今回は、残念ながらエリカが治療のため帰省していて不在。男ばかりで気の回らないところもいっぱいあったと思うけど、まず、準備段階どうだった？

久 やっぱ、研修所内の大掃除。普段掃除しない場所や色んな所にいつの間にか張り巡らされてるクモの巣取りは、地味に大変だった。

真 でも塾生さんが来ると思うとめっちゃ頑張れる！

藤 ピッカピカにしようと思うよね。

純 僕は料理長だったので、メニュー作りから、量付け、盛りつけ方のことなんかで頭

がいっぱい。塾生の皆さんは色々などころから来られるし、年齢も違うからね。旬のものをおいしく、見た目も楽しんで、満足してもらいたいという一心だった。

亮 料理は時間厳守で出さないと次のスケジュールが狂うから、とにかく仕込みを、皆で無駄なく手早く、沢山やった気がする。

藤 頼みのエリカはいなかったけど、だからこそ力を合わせようというチームワークは生まれてたね。

【研修生の役割】

久 せっかく同じ一塾生となったのだから、ここだからこそできる仲間との繋がりを皆さんに感じていただきたかった。

藤 年齢も性別も関係なくそう感じていただけたら本望だね。そのために研修生は何ができるだろう？

真 塾生さんが心から楽しめるように、また、存分に鼓童塾、太鼓、佐渡の自然と向き合えるようにサポートすること。

亮 心をつくしておもてなしをする。

仁 皆さんが気持ちよく、ワークシヨップや生活ができるように気を配ること。

久 研修生にとっちはいつも通りの「非日常」を皆さんに提供すること。僕たちは、五日間のおもてなしという非日常に一生懸命取り組むこと。

【ご飯美味しかったよ】

藤 実際、どう感じていただけただけかな。塾生さんの反応で嬉しかったことは？



鼓童塾の合い言葉は「熱き思ひ」!

藤 それもこれも塾長あってこそ。塾長の偉大さを実感したと思うけど、その栄一さん

【プロとして：塾長の姿】

純 「ご飯美味しかったよ!」(笑) 失敗もあってダメ出しも受けて、まだまだなところもあったのに。
亮 あとは、笑顔。
久 食事や僕たちの稽古の姿が、塾生さんの身や心の「元気の源」になったよ、と言ってもらえたこと。
仁 稽古は食い入るように見て下さってたね。その分、こつちも気合い入りまくり(笑)。
真 「皆さん、全員準メンバーになって下さい」と言っていたこと。
藤 とにかく皆さん、研修生の動きをよく見てくれていて、すぐ手伝いに来てくれたりするのが有り難かった。日毎に皆さんの心が開いて絆が深くなっていくのも目に見えて嬉しかったな。

から学んだことは?
亮 人生を熱く生きること! 塾長はとにかく熱いです!!
久 自分を甘やかさないこと! そこから出てくる言葉はすぐ伝わってくるし、気持ちで負けそうな時でもその人が本来持っている力に問いかけ、奮い立たせることができる方なんだと思う。
真 太鼓を通して、相手と向き合った時の楽しみ方、楽しませ方が半端じゃない。それから「間」の大切さ!
純 すぐに状況把握して、その場を展開していくところがすごい。僕たちはまだまだタイミングをはずしてばかり…。

仁 鼓童塾のワークシヨップは数日間続けて行われるけど、塾長は一時も気を抜かず、常に空気を察知して自分からテンションを上げていく…これぞプロ。身も心も最前線に立って、その場をまとめ作り上げていく姿は本当に勉強になった。

【心を感じた塾生さんの音】

藤 さて、鼓童塾を通して何か新しい発見や自分自身に変化はあった?
純 自分達は本当に応援されているんだという感じがよくわかった。
仁 そう、応援して下さっているのを肌で感

熱き思ひ

じて、今まで以上に夢に真剣になれた。
真 太鼓に向き合う自分、打つ時の自分が少し変わった気がする。太鼓は相手に聞かせる楽器だけど、塾生さんの太鼓の音で、聞かせるということに捕われ過ぎなくても良い音が出せるんだって気付けたな。
亮 俺もそう思う。太鼓は技術じゃないって。
藤 ただ純粹にひたむきに太鼓を叩いている塾生さんの音は、本当に気持ち良くて心に響いてきたよね。
久 その純粹に楽しんでる塾生さんの姿を見て、俺は自身自身の素直さに向き合うことができたかな。自分の思ったこと、言いたいことを以前より素直に口に出せるようになって、

【熱き思ひ】

藤 じゃあ、最後の質問。あなたにとって「熱き思ひ」とは何ですか?
真 夢、目標を持っていて、それに向かっている中で、悩んだり、考えたり、感じたりすること。
久 目の前にある何かに対して、踏み出すこと、とにかくぶつかってみること。
仁 夢に向かう僕たちを応援して下さい

納得して前に進めるようになった。
藤 塾生さんはカウンセラーでもあるね。

ようになって、

見て、俺は自身自身の素直さに向き合うことができたかな。自分の思ったこと、言いたいことを以前より素直に口に出せるようになって、



「これ、味無くねえ?」
「えっ、そんなことないだろ。」
もう、配膳の時間なんですけど…。

いる皆さんの思いを裏切らないこと。
藤 え? 裏切らない?
仁 研修所には自分が太鼓をやりたくて来ただけなのに、ここでただ知り合っただけの自分たちを無条件に応援してくれていることが本当に衝撃的。こういう人たちの思いも自分達の背中にあると思うと、裏切れないよなあ…つて。
藤 そうだね。塾生さんを「おもてなし」しているつもりが、逆に塾生さんから沢山の「熱き思ひ」をいただいていた。これはもう、僕たちの一生の心の宝物になったよな。
鼓童塾で繋がった輪は、きつとこの先、縦にも横にもたくさん絆を結んでいくんだと思います。その絆をいつまでも大切にしていきたいです。皆さま、本当にご参加いただきありがとうございます。鼓童塾よ、永遠なれ!

私のあの頃・そして、今

～ 研修所出身者からのメッセージ ～

それぞれの世界で活躍する先輩方から寄せられた、研修所への想い。
そして、現研修生へのメッセージをご紹介します。

やながわ よしこ
柳川好子 (18期)



舞台「見よ、飛行機の高く飛べるを」で初江役を演じて。(劇団CANプロ/2007)

私は現在、舞台役者をやっています。役者を目指す途中で研修所と出会いました。自分への糧の為にどうしても行きたかった研修所では、泣き虫で、甘えん坊で…一年で離れる結果になりましたが、現在、役者として舞台上に立っているのも研修所時代があったからこそです。

連日徹夜同然で舞台の小道具を作っていると「どうしてそこまでがんばれるの?」と聞かれます。もちろん「好き」だからですが、研修所での様々な経験が、苦しい時には何度も何度も自分を奮い立たせてくれました。

劇団の旗揚げから七年。変動の時を迎えています。乗り越える為に欠けているのが信頼関係だと感じています。

研修所では稽古はもちろん、衣食住、様々な共同

作業や感情を共有して、好き嫌いを超えた「相手を認める」という人間関係が培われました。同期が本音をぶつけてくれたあの冬の日を忘れることはありません。問題に直面していた只中に、研修所を振り返る機会を与えて下さった神サマッて、ホント粋な方です。

研修生の皆さん、たくさんの「喜怒哀楽」を楽しんで下さい。裸になつて鼻水たらして無我夢中でぶつかつて下さい。どんなことも未来につながります。研修所で出会った場面は自信として存在し続けてくれます。

私の演技の奥底にも「広がる風景」として存在していると信じています。鼓童に感動し、得たいと願った(あの)人たちの背後に広がるモノと同じように、舞台上の魂に映されていると信じています。

はしもと まいこ
橋本舞依子 (旧姓:伊藤/16期)



家庭に仕事に大忙しの2児のステキなお母さん。娘さんの入学式にて。

冷たい風が吹き、赤く染まった木の葉が散りゆく季節。私にとって十三度目の、佐渡の冬を迎えようとしています。

この原稿の依頼を受け思い返してみますと、高校を卒業後すぐに入所した私は、学生気分が抜けないまま我儘な時間を過ごし、同期に迷惑をかけていたと反省をします。それと同時に「学び直したい」「ご教わりしたい」ことが数多くあり、あの場所あの時に戻ってみたいと感じます。

私は卒業後、実家に戻ることなく佐渡に住みつき、十年以上の時が流れました。

現在私は、佐渡島内の葬儀社に勤め、主に司会進行の仕事をしています。最愛なる故人様との最後のお別れするとき。そのときをお手伝いさせていただいていますと、音楽の世界と同じように『心で伝

える』『心を通わす』ことの大事さを日々感じます。一つのことを皆で作りに上げ、思いやりを持って、無駄なく臨機応変にお客様のご希望に沿った『おもてなし』をする心。その結果として『ありがとう』素敵な式になりました。とおっしゃっていただけのこと。『おもてなし』の大切さを教えてくれた研修所生活そのものが、今の私の励みとなり、芯のある仕事をするための支えでもあります。

現研修生の皆さん。研修所には学ぶだけでなく、出会いや別れ、そこにしかない貴重な宝物がたくさんあると思います。時間を大事に、その宝物一つ一つを自分らしく見つけて欲しいと思います。同じ佐渡の空の下、いつまでも皆さんの活躍を願っています。

あさもと たかし
朝元 尊 (23期)



園児へ熱心に和太鼓の練習に取り組む、朝田幼稚園の園長先生。

私は現在、静岡県浜松市内の幼稚園や保育園の仕事、また、大学や専門学校にて講師を担当するかわら、子どもから大人までの太鼓グループを立ち上げる（鼓童メンバーのご指導にも助けられています）など、やりがいのある仕事に汗しておられます。鼓童の活動理念の一つである「くらす・まなぶ・つくる」という基礎は、幼児期の現場にも通じていると実感いたします。

さて、研修所に最年長（当時、三八歳）で人所させていただきましたが、当時、相当な決断で臨んだ事を思い出します。その、決断とは、何か断つ事を決めることですか。いま、一歩引いて想えば、鼓童の膝元で学



ばせていただく機会をいただきましたが、近くに行けば行くほど遠くに感じ、現在のように遠くならば何か近くに鼓童の存在があるという空気があります。鼓童で学ぶことは、大学で学んだ以上に人づくりという観点から言えば、優れた学びの舎だと思えます。研修生は少なからず人生の指針となるような芯の部分形成されているはずで、どこかで観た映画で「大いなる力は、大いなる責任が伴う」という言葉が記憶にあります。鼓童という存在（研修生含む）は社会、いや世界からもそう観られているのではないのでしょうか。

どうか、鼓童の芯の力を世界調和にますます情報発信してください。情報は移動距離に比例しますから。

みなみ ともゆき
南 智征 (旧姓:中島/21期)



「寺田本家」蔵人、発酵マクロビオティック料理人。「なかじ」の名で2作目の著作も。

秋の田んぼに実った稲穂がたなびく風景は、とても美しく限らない安らぎを感じます。平和の「和」は禾（稲やひえなどの穀物の意）に口。稲を口にする（食べると）心穏やかに平和になりますよ、この意味があるそうです。また和（む）は輪環・倭でもあり、稲作を中心に皆が繋がりが輪つかになること、そして人々が集い、村ができ、祭りをやる。佐渡はそんな暮らしが残る島です。研修所での二年間もまさに田んぼと芸能、地域の人々とのつながりでした。そして、そのなかで「暮らし」ということを学びました。

佐渡から、千葉の田舎に移り住んで五年。今の僕の暮らしは、夏は田んぼをしながら夫婦で自然食と自然医療を伝える教室を開き、雑誌や本の執筆活動。そして冬は造り酒屋でお酒を造っています。

す。田んぼは自家用だけで、夫婦が一年食べられる広さです。とりあえずお米さえあれば生きていけますので、自分の食べる分は自分で作り、後は自分の好きなことができています。春は田植えをし、山菜を取り。夏は雑草取り、祭り。秋は野山での収穫。冬は保存食作り。足りない分は仲間やシェアする。その中で芸能を通して神様や自然に感謝していく。日本人の暮らしはホントにもう、これで充分。そこに世界が平和になるヒントがあるような気がします。今の研修生の方にも、その日々の暮らしの一瞬一瞬を大切に、感動してもらえたらと思います。

元気に楽しく生きる「暮らし方」を学ばせていただいた佐渡のじいちゃんばあちゃん、そして佐渡の全ての人々に感謝です。

研修所講師メッセージ

心体を鍛え、技を持って

文●見留知弘 写真●西田太郎



舞台に立ちながら、研修生に教えるようになって、十四年が過ぎました。
坂東玉三郎さんからも、後輩に教えなさい、伝えなさいと、お言葉を頂き、ツアーを離れて研修所へ集中稽古に行く、近年、人に教えるということは、自分に返ってくるものが多く、再確認になり、教えていることがどんどん明確になって、その動きに理由や説明が出来るようになってき

ました。研修生が上手になってくると、成果が見えて嬉しいものです。その反面、成果が出ないということは、教え方が良くないのではないかと悩んだりも。

研修生に求めるのは、技術や上手さではない。まずは体力と根性。これがなければその上に技術はのらない、つまり、しっかりした土台(基礎)がなければ、家(技)は建たないのです。教えたいたいのはその先にあるのに、太鼓を叩く体力がなければ、その先に行けない。だから体力と根性が必要なのです。

また、芸は教えてもらうのではなく、見て盗め！ という言葉にもあるように、すぐに出来なくても、見て覚えておいて、自分のもの出来るように稽古を繋げていけば、上達の近道だと思います。

そして、物を大切にすること。

太鼓やバチや台などを大切にしない者は、上達はしないぞ！ この言葉は、初めて教える時には、必ず言っているといます。太鼓も愛情を持って接していかなければ、音で返してくれませんし、バチというのは相棒であって、太鼓打ちにとってなくてはならない大事な存在なんだと、ある方から教えてもらいました。

研修所での二年間は、太鼓や踊りや唄の稽古以外にも色々な習い事や農作業があったりと、じっくりと取り組むゆとりはないかもしれませんが、その経験が自分の引き出しになります。自分が舞台上がっている姿を思い浮かべて、目標に向けて稽古に精進して欲しいと思います。努力は裏切らない！

研修所講師の先生方(敬称略)

佐藤利夫 [講義] 佐渡研究者
福島徹夫 [講義] 元・新潟県栽培漁業センター所長

桃井宗生 [茶道] 裏千家学校茶道教授
松永政雄 [能] 宝清流教授嘱託

小笠原匡 [狂言] 能楽師和泉流狂言方
金城光枝 [琉球舞踊] 琉球舞踊家

岩手県盛岡市黒川さんさ踊り保存会
[黒川さんさ踊り]

岡田京子 [歌] 作曲家
伊藤多喜雄 [唄] 民謡歌手

赤塚五行 [俳句] 新潟日報佐渡版俳句選者
熊田勝博 [講義] 照明家

葛原正巳 [陶芸]
西須殉治 [木工] 指物師

岩崎ちひろ [魚のさばき方] 魚屋
松田祐樹 [講義] 佐渡の芸能研究者

狩野泰一 [笛] 篠笛奏者
金子竜太郎 [太鼓など] 和太鼓奏者

鼓童メンバー講師

内容／太鼓、踊り、唄、笛、身体ケア、舞台実習、農作業、造形、講義、英会話、生活全般など
講師／大井良明、藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、大井キヨ子、山口幹文、齊藤栄、見留知弘、新井武志、堀つばさ、石塚充(補佐)・辻勝、船橋裕一郎、砂畑好江、阿部研三、青木孝夫、菅野敦司、山口康子、千田倫子、石原泰彦、後藤美奈子、松浦充長、土橋達也、メロニーティラー

くらす・まなぶ・つくる 様々な稽古・研修・生活

毎日の生活の中での料理、季節毎の農作業、講義や茶道、陶芸などのもの作り。研修所でのカリキュラムは、太鼓や踊りなど様々な郷土芸能の根っこに近づくために、自分達の心身を耕してゆく取り組みです。



■ 太鼓・踊り・唄・笛の稽古

太鼓をたたき前に、撥を作り、締め太鼓の締め上げ(音のチューニング)を覚え、太鼓の基本的な打法を段階を追って学びます。曲としては「屋台囃子」「三宅」「大太鼓」「八丈太鼓」「千里馬」など様々なスタイルの太鼓を稽古します。

踊りでは「鬼太鼓」「剣舞」「さんさ」「西馬音内盆踊り」など全国各地の様々な芸能を学びます。唄の稽古では、発声・音程・リズムなどの基本から作曲や合唱まで声を用いた表現、笛の稽古では、一年目に基礎的な音の出し方、二年目は選択制で応用的な内容を学びます。



■ 能・狂言・茶道・講義など

能(宝生流)・狂言(和泉流)では、基本となる謡の稽古を中心に行います。本物の能舞台での稽古や、佐渡の能楽愛好者のみなさんの発表会へも参加します。また茶道では、一年目に盆略点前、二年目からは選択制で薄茶点前(炉)まで学びます。

講師の先生方による佐渡の歴史や自然に関する講義があり、また俳句は季節ごとに吟行をします。地元の方から山菜採りやわら草履作り、魚の捌き方や陶芸などの生活の知恵を教えて頂く時間もあります。造形は、入所してすぐ、伐り出した一本の竹からそれぞれの箸を作ることから始めます。



■ 農作業(田圃・畑・柿)

農作業は無農薬・有機栽培で、大部分は手作業で取り組みます。それぞれの季節を感じながら、稽古の合間をぬって天気と相談しながら行います。

田んぼは合わせて三反余り(50mプール三つ分くらい)の広さで、研修生の食事約4ヶ月分をまかないます。畑では自分達で選んだ季節の野菜を作り、また柿畑では、遠くに海を眺めながら約月一回の作業を行います。

11月には、日頃お世話になっている皆さんを研修所にお招きして「収穫祭」を開きます。米、柿、サツマイモなど、自分達で作った食材で料理を作り、おもてなしします。



■ くらし

研修所での共同生活は、人と人のつながりの中で生きていく力をつける大切な学びの要素と位置づけています。

食事当番や身の回りの生活を研修生全員で協力し工夫します。

■ 実地研修

佐渡で行うワークショップ「鼓童塾」や「太鼓体験塾」のアシスタント、「アース・セレブレーション」「鉱山祭」「鼓童十二月公演」の準備から本番まで実践を通じてスタッフワークを学びます。大きな祭りを作り上げる大変さと充実感を体験します。



■ 祭りへの参加

佐渡では集落ごとに神社の祭りがあり「鬼太鼓」という芸能が盛んです。研修生は地元の祭りに受け入れていただき、生活の中の祈りから生まれた芸能を肌で感じていきます。

4月、2年生は柿野浦の祭りに参加。鬼役、太鼓役に選ばれ、集落の一員となるこの日の体験は、研修生にとって無上の喜びです。また9月には1年生が岩首の祭りに参加し、芸に対する熱い思いや、地域の絆の深まりに触れます。これら研修所の地元の祭りには毎年、島を離れた卒業生の誰かが心の故郷として帰ってきます。夏には鼓童の本拠地、小木地区の祭りに参加させていただき小木の方々と親交を深めます。

研修所の一(夏時間)

※時間割りは季節によって変わります

- 4:50 起床、体操、掃除、トレーニング
- 6:50 朝食
- 7:30 ストレッチ、締め上げ、朝稽古

9:30 午前の稽古

稽古の時間は太鼓や踊り、唄などの他に、農作業や造形、講義の時間も。年間およそ2/3が太鼓や踊りなどの時間、残りの1/3がそれ以外の時間に充てられます。

12:30 昼食・休憩

食事と休憩の時間です。個人稽古をしたり、午後の稽古に備えます。

14:00 午後の稽古

稽古は基本的に研修所で行われますが、内容によっては鼓童村でも稽古をします。季節や天候によっては野外でも稽古をします。

18:30 夕食

19:30 各自の時間 ~就寝



アンケート

- 1 研修所に来る前何をしていたか？
- 2 研修所に来て一番印象に残っていることは？
- 3 趣味
- 4 好きなアーティスト(音楽とは限りません。敬称略)
- 5 自己PRしてください。

1年生

たていし らい
立石 雷

1988年12月10日 滋賀県高島市

1. 京都のお寺に住み込み、昼は人力車で平安神宮～銀閣寺を走り、夜はライブハウスで配膳しながらライブを見ていました。
2. 柿野浦の朝日と大小の夕日!!
3. 秋は読書と散歩。岡本太郎調べ、目を見る、月を見る(目と月って字似てますよね。これはどうせん?)
4. 岡本太郎、トータス松本、東原力哉、渋谷知らズオーケストラ、坂本龍馬、つるべ、ピカソ、カルロス・サンタナ、Toto、善規と啓子、藤本吉利、志村けん、両津かんきち。※いすぎて書き切れません。
5. 生きるテーマ「楽しくhappy」「五感をフル可動」。人生一回、あと多分60～70年の命。知らない事を知って自分の目玉を世界へ。世の中、素敵な人が一杯いるので、もっと色々な人に出会いたい。あー未来を想像すればワクワクします!! 機関誌を読まれているみな様にもお会いしてお互いの可能性を広げたいです。

たにくち ふみか
谷口 風見花

1990年11月30日 神奈川県横浜市

1. 高校生になりました。
2. 保育園ワークショップのときに、保育園児に、pinkレンジャーと結婚する!!と言われたこと。
3. 食べること。ここに来て食べる量が格段に増えました。こんどは食べる以外にも趣味を見つけなくては…(汗)
4. Priscilla (フランス人)、Mihimaru (疲れた時に聞いてます)
5. 風見花…母がつけてくれた名です。野に咲く花は強い。踏まれても踏まれても起き上がり、どんなに強い風がふいても耐え抜く力をもっている。春の心地よい風も、南風も、嵐も、どんな風が来ても、それを見つめ、感じる。風に流されるわけではなく、誰が見てるわけでもないけれど、自分らしく、強く、たくましく、そして、いきいきと、ただそこに咲いている。私もそんな花になりたい。ずっと嫌いだった名前だけれど、今やっと、その意味が分かってきました。お母さんありがとう。

さかい あきふみ
境 晃史

1986年10月14日 埼玉県越谷市

1. 毎日ラーメンを食べていた大学生
2. 研修生活は本当に喜怒哀楽。感情の移り変わりが激しい。今まで何回喜び、怒り、哀しみ、楽しんだか!! 生きてるといふ実感が湧きます。
3. サイクリング、旅、ラーメン食べ歩き、インテリア、柿野浦の海で漁をすること。
4. 井上雄彦、山本寛斎、平坂光江、三輪明宏、宮崎駿、Linkin Park、Ellegarden、Gorillaz、Hoobastank、HY、Mae、Maroon 5、Radiohead、Red Jumpsuit Apparatus、アスーシュカ・シャンカール、ポール・ウィンター、姫神、久石譲、John Williams、吉田兄弟、金子飛鳥
5. 鼓童を詳しく知ったのは2年前の鼓童塾。そして人生の中ではじめて強く憧れたのは鼓童の“研修生”でした。そしてその研修生になって新たに目標ができました。それはプレイヤーになって舞台上で鬼剣舞を踊ること。今は自分の中に鬼は宿っていませんが、いつの日か鬼の面が被れるよう努力するつもりです。その他の夢「自分で設計した家に住むこと」「自転車で世界を走ること」「おいしいラーメンが作れるようになること」「優しい嫁さんをもらうこと」「体が柔らかくなること」すべて叶えてやるぜ!!



岩首集落の祭りに参加

みのわ まや
蓑輪 真弥

1986年5月21日 宮崎県串間市

1. 短大卒業後、一年間ブラジルで和太鼓まみれの生活
2. 佐渡の夜空の星の数、岩首の祭り、仲間との別れ、誕生日の夜に田んぼにおきざりにされた事…。一日一日が印象に残る生活です!!
3. ゴルフ(研修所に来る直前に始めたのでまだまだ初心者ですが…)、陶芸(研修所に来てはまりました)
4. 東国原英夫、長淵剛
5. 研修所に来る前は本当にここの生活とは考えられない日々を送ってました。4時50分起床なんて…年に数えるくらいしかなかったし、就寝も、日付変わっての就寝があたり前で…化粧をしない日なんてなかったし、朝方まで友達と飲んで…その日楽しければ良いって思っていました。いかに楽をして生きていくかばかり考えてました…それが…。ブラジルで一年生活をして、この鼓童研修所という道を選んで、実際にここで生活をして、一日一日、日々、将来に対する思いが変わっていくんです!! せっかく命をもらって人間として生きさせてもらってるんだから、なんかドカーンとやりたいですよ。それが私には太鼓なんだと思います。元気、パワーを与えられる人になりたいです!! いやっ!! なります!!

みうら ゆうき
三浦 祐輝

1990年11月20日 梨とバラの町の千葉県八千代市

1. 高校生とアルバイトを少々
2. 千葉と空気の匂いが全然違う事。あと本当に寒い事。それと寒い事。(笑)
3. 手品・睡眠
4. 葛飾北斎・立川談志・レイチャールズ・前田知洋
5. この機関誌の研修所特集の存在は入所前から知っていましたが、遂に書く事になろうとは。高校の時分から太鼓を始め、その魅力にとりつかれました。そしてその思い向上し研修所に来るまでに至っています。しかし中身は身体動かすの苦手な眠がり人間。これから本格的な冬を迎えます。三浦祐輝はこの極寒の地で生きて行けるのかー 乞うご期待下さい。それでは!!

な お ち ひ ろ
奈尾 知弥

1990年10月10日 香川県三豊市

1. 1日中ゲームか、研修所では寝れないと聞いていたので1日中睡眠
2. 朝がすぐつらいこと
3. 読書(マンガ)、ゲーム、映画を見る
4. 尾田栄一郎、ジャッキー・チェン
5. 佐渡の方の笑顔を見るのが大好きです。初めて会う方でも優しくしてくれる佐渡が大好きです。笑顔に笑顔で答えすぎて、自分の顔が変形している気がしています。これからも佐渡の色々な方に覚えて頂けるよう笑顔を振りまきまくりたいです。



田植え前、田の神様に踊りを奉納

さえき あつのぶ
佐伯 篤宣

1985年4月15日 大阪府交野市

1. 京都の大学で社会福祉を学んでいました。
2. 本当にたくさんあるのですが、その中でもやはり自然のすばらしさを改めて知れたこと。特に研修所でみる夜空の星はいつもでも感動します。
3. 釣り、スノーボード、サッカー、ミサンガ作り、ポーッと海を眺めること（今も柿野浦の海を眺めながら、これを書いています）、etc.
4. 神奈川馬匠（僕の太鼓の師）、須藤元気、中田英寿、司馬遼太郎、ドリカム、坂本龍馬、バップアロー五郎、椎名林檎、カニエ・ウェスト、メアリー・J、リュダクリス、etc.
5. 佐渡へ来て7ヶ月。たくさんの人に出会い、たくさんの人に支えてもらい、今自分はここにいられます。本当にすべての人に感謝です。そして、僕にとっての一生ものの財産です。明日もすばらしい出会いが待っていますように。そして、この文を読んで下さっているみな様に、いつの日かお会いできる日が来ますように。

おざわ じゅんこ
小澤 純子

1981年6月17日 静岡県富士市

1. ポリビア留学→大学卒業→V365→プレーリーダー→ブラジルでボランティア→ポリビアでダンス習う→スポーツクラブでインストラクター
2. 佐渡に根付くお祭りと海から昇る朝日
3. 走る、泳ぐ、トレッキング
4. 石川直樹、葉祥明
5. 自分の内側にあるフツフツとしたものを出す手段として走ったり踊ったりしていました。それ以外に自分を表現する手段を見つけようと思い研修所に来ました。自らが楽器となって声を出す唄に魅力を感じるようになりました。

こまつ ざき しょうご
小松崎 正吾

1990年5月17日 福島県いわき市

1. 高校生という名目で好きな事、楽しい事、たくさんしてました。
2. いちいち泣ける朝日、夕日。空におさまりきらない程の星ぐず。季節の変わり目にやってくる嵐。その嵐にのってやってくる四季のニオイ…佐渡の自然の姿は毎日がイチバンです。
3. 音楽する事。ぶらぶらさんぽ。板もののスポーツ（スキー、スノーボード、etc.）歌うこと。
4. 書ききれない程います。楽しんでる人ならみんな好きです。金子竜太郎、一打の会、スーザン・オズボーン、Love Voice、Bob Marley、Bill Withers、Dr. John、Eric Clapton、Michael Jackson、Otis Reding、Stevie Wonder、ハナレグミ、久万正子、小松崎政雄、Gonza、岩崎ちひろ、スリッソット、Kodo、etc.
5. 僕に関わってくれている人達、同じ空の下でつながっている人達に今日も感謝!! そしてこれからもっとたくさんの人と関わってつながっていきたい。日々の出会いに感謝。さあ、ゆっくり息をはいて、身体いっぱいにしてすってすってすって。ニカッと笑って「今日もありがとーう!!」ふう…こんな感じです。



大自然の中で、野外稽古



2年生

「心との出会い」

たかはし あきよし
高橋 亮



研修所生活を一年半過ごして、自分が一番感じたものは、心から動くことです。辛い時でも悲しい時でも、どんな時でもどんな状態でも太鼓を打つ。その中で自分を動かさせてくれるもの、心で考え動く事が出来る幸せが自分の支えになってくれました。心が幸せで満ちている時の太鼓の音は、もの凄いい力があるのだと思います。

研修所生活は色々な出会いがあります。その中に必ず心があり、愛がありました。地域の方々から自分と向き合ってもらい、色々な話をして頂きました。そんな方々の前で自分の太鼓を打つ姿を見せる時は、自分の力とは思えない程の太鼓の力強い音が出ます。その時にいつも出会うものがあります。自分の本物の心との出会いです。この時の心は本物だと思ふくらい嘘がなく、素直で清々しい。感謝しても仕切れない程のものを沢山くれた方々の前で太鼓に向かい打つ事で必ず出会えた本物の心。この心は、自分一人で気がつく事は絶対できなかった事。この研修所に来なかつたら自分の本物の心とは出会わなかつたと思います。この心が

自分だけの宝物であり、自分なんだと思いました。

この研修所に来て、一番成長したのが太鼓よりも何よりも心が成長したと思っています。太鼓は自分の心をうつつしてくれる。まずは心から育てないと太鼓に何もうつらない。これからの自分の人生の中で、今までずっと支えてくれた親の本物の心だったり、これまでの出会いを大切にして、今まで経験した事がない事を太鼓人生の中でもっと色々と経験し、自分の心と出会い、自分だけの宝物を更に見つけていきたいです。

「ここへ来た理由」

くぼた じゅん
久保田 潤



現実を見て安定した道を望むか、それとも自分の夢に手を伸ばすのか。妥協して後悔して普通の会社勤め…なんて想像できなかった。だから今、僕は佐渡に居る。

中学生の時、親に迷惑をかけてこつぱどく叱られ、何か夢中になれる物と思ったのか、僕を地元の太鼓の保存会へ連れて行ってくれた。母の計算通り、僕は太鼓に夢中になった。高校進学の時、行きたい高校も無かつた僕に、母は和太鼓部のある高校を教えてください



た。中学で全く勉強しなかった僕をやる気にさせてくれて、お陰で高校三年間の和太鼓漬の生活は本当に充実したものだ。

大学の時は自分で和太鼓サークルを探したけれど、サークルの為に大学へは行けなかった。だから僕は小さい頃から続いていた演劇の勉強ができる大学へ進んだ。けれど、大学三年の夏、演じる事に違和感が出てきて芝居がわからなくなった。やりたい事って何だった？自分が立ちたい舞台ってなんなんだ？

舞台。太鼓も舞台で演奏する形でやってきました。久保田潤という人間のエネルギーを太鼓を通して表現していた。

演じるのはもう嫌だ。自分でいたいんだ、という答えに行き着いた。

やるなら地元を離れたい。自分が甘えられる人がいない場所でイチから始めたい。

鼓童。ここならきつと夢を持って強い意志が集まった人達がいるはず。鼓童に行きたい。

「その歳で挑戦するんか？ハードルは高くなるよ。」と、高校の顧問の先生。確かに厳しい。でも行きたい。そこへ母の一言は、「アスタが決めたんやったら納得いくまでやっておいで！」と背中を押してくれた。

ホンマにありがとう。行ってきます！

「思い」

かわむらしのぶ
川村真悟

僕は今、研修所に、佐渡に来ることができて本当に良かったと胸を張って言えます。あなたが夢を持って行動している姿に、すご

く勇気づけられる…と遠くで応援してくれている家族や友人達には心から感謝しています。



「本当にありがとうございます。」

そして、この佐渡で出会った人達もまた、僕たち研修生のことを我が子のように温かく見守ってくれています。地域のお祭りに参加させてもらったり、田んぼや畑の事を教わったりと良い経験をするとは、正に今であり、佐渡に来てから出会った方々にも家族と同じように感謝しています。

「本当にありがとうございます。」

研修所生活では、太鼓だけじゃなく色々な経験をしました。早朝のトレーニングで日の出を見て感動した事。自分達で育てたお米や野菜を食べた事。地元の祭りにかける佐渡の人のアツい思いと誇りを感じた事。海でサザエを食べた事。スズメバチに刺された事。寝る時以外は常に一緒に居た仲間との別れ…。その辛さを乗り越えた事。ここには決して書ききれない数々の出会い、経験の一つ一つ全てが、僕の心を豊かにしてくれました。そして、僕はそれを誇りに思っています。

若者達からは、「農作業なんてだせえ」とか、「なにマジになってんだよ？」なんて言われそうですが、そんな輩にこそ、自分が研修所で学んだ事の全てをのせた太鼓や唄、真剣な自分の姿で「本気のかっこよさ」というものを伝え勇気づけたい。

それを実現する事こそが、研修所で学ぶ意味であり、お世話になった人達への恩返しでもあると思っています。

「踏み出す力」

かじもとのぶゆき
藤本暢之



早いもので、研修所での生活も残すところあと二ヶ月余りとなった。何かに導かれるように、ここ佐渡の地へ足を踏み入れたあの日のことを最近よく思い出す。あの一歩があったからこそその思いや経験、繋がりがあって、あの時、躊躇せずに踏み出せて本当に良かったと思う。三年前までは鼓童にも太鼓にもまるで興味のなかった僕が、今では鼓童を愛し、研修所を愛し、佐渡を愛している。それは、この一年半の間にあらゆることから、計り知れない程の愛情と慈悲をいただいたからに他ならない。

とりわけ、研修所がある柿野浦の方々には



いつも大変お世話になってる。研修生には家族同然のように接して下さり、目に見えないところまで色々とお気遣っていただき、共同生活をしている僕達にとって本当にかげがえのない存在だ。つい先日、柿野浦の敬老会に参加させていただいた。柿野浦在住の七十歳以上の方々をお祝いする会だ。とても和やかな雰囲気です皆さんとにかく元氣に逆はこちらが元氣を貰ってしまっただけだ。ただただ感謝の言葉しか出てこない。もっともっと皆さんと交流したかったなあ。

研修所というところは、やはり修行の場なのである。思い通りにならないことも多く、凹むことも度々ある。ただ逆境だと思えば苦しいだけで、新たな挑戦の場、経験を積むための場だと思えば、ここほど楽しい場所はない。新しい一歩を踏み出すには勇氣がいるが、前へ向く気持ちさえしっかりあれば人生は変わるのだ、それはいつどこにいても同じことが言えるのだと思う。

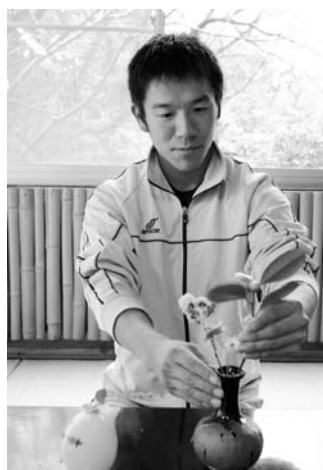
心が変われば態度が変わる
態度が変われば習慣が変わる
習慣が変われば人格が変わる

人格が変われば運命が変わる
運命が変われば人生が変わる

お世話になった皆様、ありがとうございます。

「茶花」

きのしたひとし
木下仁資



野にある花に目をうばわれることがあります。研修所に来て茶道を学び、茶花をいけるようになってから、それは格段に増えました。

茶花の基本は『花は野にあるように』です。野山に咲いている花達を飾らず自然に、そのままの美しさを茶室にもつてくる。簡単なようで難しいこのテーマに、一年半悩まされました。どうしても、「こうすればもっと綺麗に見えるんじゃないか？」と自分のエゴを花に反映させてしまいます。そしてそんな茶花は、必ず先生から指摘を受けます。自分が余計なことをしなくても花はそれだけで生命力があり綺麗で、自分の考えを入れてしまうとその美しさが霞んでしまうことを学びました。自分が野の花に目をうばわれるのも、それが自然だからなんだと気付きました。

した。それ以来、茶花をいける時は心を沈めて花が咲いていた時を思い出し、その花なりをそのまま見ることができるようになることを心掛けています。

僕がこの研修所で身につけたかったのも、いかに自然体で太鼓に向かえるかということでした。舞台を目指す以上、人から見られることを意識しなければいけません。だからといって、自分を飾って本当の自分を隠しては何も感じてもらえません。いかに自然体で人前に出られるか、自然な自分で太鼓を叩けるか。茶花はそれを常に問いかけてくれます。

「ぐぐつと前へ進む力」

うだえりか
上田恵里花

自分が変われば、世界が変わる。ほんとだね。変わらなければいつまで経っても同じ世界。

視野を広げたい 器を大きくしたい。

鼓童を夢みてるだけじゃいつまでも夢のまま。一度きりの人生、やりたいことならやりきるしかない。だから佐渡にやってきました。

出逢いと刺激、濃厚な毎日。想いが交錯。絶望したこともあった。自分との闘いだ。この辛さ





をバネに、いい太鼓を、踊りを生み出すんだ。
…… 一日一日を踏みしめるちからになっ
ていく。自分を支えるのは、結局は強い意思
だもん。

進級して、このメンバーでまた一から創り
上げようとまとまった。本当の意味で一人
ひとりが見えてきた。そんな時に、大きな痛
手。治して戻ることだけを考えた。遠くか
ら見つめるみんなの姿、研修所という場所。
今までピンボケするくらい近くにいたんだ
ね…。

今生の太鼓の音がほしい。
今、存分に踊れたらな。

……衝動と我慢との戦い。離れても変わら
ないものが、踏ん張るちからになった。
目の前の世界は鮮やかに変化していく。
打てる幸せ。踊れるってすごい。みんなで
また酒屋唄が唄える。一人じゃできないこ
とばかりだね。別れもあった。みんなの想
いが充滿する稽古場で一緒に打ったこと、忘
れないよ。

……太鼓のちからを肌で感じる。感動する。
これだけのものを味わったんだ。
どんなことも大丈夫。一途にこの道を進
んでいられることにありがとう。

鼓童が好き。佐渡が好き。
どっちもあつくて、あつたかい。
更に太鼓に惹かれてく。
この音にくるまれた世界に立って、ちから
の源を世界中の人々に手渡していきたい。

「告白」

池田 純
いけだ じゅん

ありがとう、と伝えたい仲間がいる。それ
は二十七期のみんなだ。二十七期の七人は
最高の仲間だと思う。だから、みんなに「あ
りがとう」と伝えたい。日頃から思ってい
ても、あんまり素直に言えない。素直になりた
いけども、色々な感情が混じって、なれない。
ので、この文章を書くのに少しばかり抵抗が
あるが、頑張って素直に書こうと思います。

この仲間と過ごして来た二年近くは、絶対
に忘れることのない濃い思い出だと思う。
喧嘩もした。納得のいかないこともたくさん



んあった。色々悩んだこともあった。嫌
いになる時もあった。だけど、今は「好きだ」
この二十七期が。最近やっとまとまってきた
。今までは、なかなかまとまらずいつも、

個々人という感じであった。今、みんなが
一つになろうと思っているのがすごく好き
だ。親父のようなフジ、我がが特攻隊長のシ
ンゴ、演技派のクボ、力自慢のヒトシ、同じ年
で、頼もしいアキラ、二十七期のマドンナ、エ
リカ。この六人の仲間。本当に頼りにして
いる。この六人が居たからこそ、頑張ってこ
れた。正直、研修所を辞めようと思っていた
時期があった。けれど、この六人の仲間の姿
を見ていると、まだいける、頑張ろうと思え
るようになった。まだまだ、色々と思う所は
いっぱいあるけれど、あと少し、この仲間
で過ごせる時間を精一杯に頑張ろう、楽しみたい
と思う。二十七期のみんな、愛してるぜ。」そ
して「ありがとう。」

